PGM-WEE News Letter

Vol.08
April, 2020

カンボジア国女性の経済的エンパワーメントのためのジェンダー主流化プロジェクト

Project on Gender Mainstreaming for Women's Economic Empowerment

ニュースレター目次

- 合同ジェンダー研修の開催（プノンペン）
- 女性省大臣と連携省によるパイロットサイト視察（シェムリアップ州）
- パイロット活動のサイト選定（コンポントム州・トボーンクモム州）

活動のアップデート

- 2020.1

《合同ジェンダー研修の開催》
《コンポンチュナン州》
・エンドライン調査準備
《シェムリアップ州》
・大臣及び連携省によるパイロットサイト視察
・第２回ジェンダー研修の実施
《トボーンクモム州・コンポントム州》
・パイロット活動準備（サイト選定）

- 2020.2

《コンポンチュナン州》
・第２回ジェンダー統計ワークショップ開催
・エンドライン調査の実施（ケーススタディセッション含む）
《シェムリアップ州》
・ビジネス研修実施（ビジネス関係者分析）
《コンポントム州》
・第２回 WEE-WG 開催
・パイロット活動候補サイト(8 村)でのフィージビリティ調査実施
《トボーンクモム州》
・第２回 WEE-WG 開催

JICA ホームページ、 JICA カンボジア事務所の Facebook でも随時活動を紹介しています。
https://www.jica.go.jp/project/cambodia/023/index.html
https://www.facebook.com/JICACambodia/

合同ジェンダー研修の開催（プノンペン）

2020 年 1 月末に、プロジェクトが対象にしている 5 州（コンポンチュナン州、コンポントム州、トボーンクモム州、シェムリアップ州、コンポンチャム州）の関係 8 局の職員をプノンペンに招き、2 日間に分けてジェンダー研修を実施しました。女性省や連携省のカウンターパートを含め、合計 193 名が出席しました。

合同ジェンダー研修の出席者（プノンペン）

研修では、ジェンダーやエンパワーメントなど基本的な考え方をはじめ、女性の経済的エンパワーメント（WEE）に関する理解を深めるとともに、ジェンダー主流化を行政の業務に浸透させることの重要性について理解促進を図りました。ファシリテーターは東谷総括が務め、グループワークを中心に、参加者の積極的な議論や意見交換を促しながら進めました。

グループワークの様子（コンポンチャム州、コンポンチュナン州からの参加者）

今回のジェンダー研修を通して、プロジェクトが支援するパイロット活動は生計向上を通じたWEE 推進を目的とすることや、WEE の推進にあたっては5つの要素（機会へのアクセス、情報の共有、役割・責任分担、家計管理、意思決定）により主眼を置くことについて、関係者の共通理解を得ることができました。特に今後パイロット活動を開始するコンポントム州とトボーンクモム州の関係者にとっては、サイト選定や活動計画のプラン作りの前段階で基本的な方向性を明確にすることができたため、パイロット活動の目的やプロジェクトの支援スコープに対する理解が深まったと考えられます。また、女性子ども諮問委員会の議長やWEE-WG 議長（副知事）を含めた各州の関係者が一堂に集まることによって、それぞれの経験を共有しながらお互い学び合う機会にもなりました。

女性省大臣と連携省によるパイロットサイト視察（シェムリアップ州）

昨年実施した中間レビューや合同調整委員会において、今後より連携省庁関係者の巻き込みを積極的に図っていく必要性が指摘されたことを受けて、1月14日に女性省のH.E. Ing Kantha Phavi大臣をはじめ、農業省や商業省などの連携省庁8省の関係者及び開発評議会(CDC)メンバーがシェムリアップのパイロットサイトを視察しました。この視察を通して、プロジェクトがシェムリアップ州政府と協力して円滑に活動を進めていることや、特にプロジェクトが州局と共に提供している女性向けの小規模ビジネスのためのスキル研修の有効性について、関係者の理解を深めることができました。これを契機に、各省や州局とより一層協力しながら、シェムリアップ州でのWEE促進を支援していきます。

箒作りに取り組む女性たちと（カナーポー村）

ジェンダー研修の開催－WEEとは何か？

上述の視察のタイミングに合わせる形で、1月14日にコンポンプルック村で、翌15日にカナーポー村で、住民を対象にした第2回ジェンダー研修を実施しました。今回の研修では、プロジェクトが提案するWEE のプロセスを理解できるようグループワークを進め、パイロット活動の目的は単なる生計向上（現金収入の獲得）ではなく、生計向上活動への取り組みを通じた女性自身のエンパワーメントおよびジェンダー平等の実現を目指すものである、ということについて理解を深めました。コンポンプルック村では、視察に訪れていた大臣や関係者にグループワークの結果が報告され、非識字者の多い農村住民に対し、イラストを使ってWEEのコンセプトの理解を促していること、グループワークを通じて女性たちが自分たちの経験を共有し、積極的に意見交換を行っていることが共有されました。

パイロット活動のサイト選定（コンポントム州・トボーンクモム州）

コンポントム州とトボーンクモム州では、引き続きパイロット活動の準備をしています。活動サイト候補である各州5つの女性グループのジェンダーやビジネスに関するインタビュー調査結果を踏まえ、パイロット活動の選定条件（州の政策との整合性、ビジネス可能性、女性の積極的参加、地域の協力体制など10項目）を作成しました。WEE-WGの承認を得たこの選定条件を基に、女性省カウンターパートや連携省、州局がフィージビリティ調査（①村長など行政関係者へのインタビュー②村民を対象とした男女別フォーカスグループディスカッション③マーケット調査）を行い、最終的なサイト選定を進めています。

女性たちとのフォーカスグループディスカッション
（コンポントム州）

生計向上を通じた女性のエンパワーメントの促進
（コンポンチュナン州の事例）

コンポンチュナン州ではパイロット活動（養鶏支援）が終了し、現在エンドライン調査や成功事例のとりまとめを行っています。養鶏を通じて生計向上を図った結果、エンパワーメントの視点から対象女性にどのような変化があったのかを紹介します。

◆参加女性 A さん（既婚、子ども 3 人）

これまで夫婦で合計 11 回プロジェクトの活動に参加してきた A さんは、技術研修で習得したシェルター作りを実践し、放し飼いをやめシェルターで飼育するようにしました。また、水を頻繁に取り換えたり、シェルターを清潔に保つことを実践した結果、鶏が健康になりよく育つようになりました。家計を助けることにつながったことからも、そのような変化に A さんの夫も関心を持つようになり、A さんと一緒に鶏の世話をするようになりました。次第に、A さんは夫と対等に話せることが増えてきたと言います。ジェンダー研修で学んだことも夫に話すなどして、今では日常の支出などは主に A さんが決められるようになり、以前は時に DV もありましたがそれもなくなったとのことです。

本通信は、プロジェクト日本人専門家がプロジェクトの進捗をお知らせするもので、JICA およびプロジェクトのカウンターパートの見解を示すものではありません。（禁無断転載）